

構造改革特別区域計画

1 構造改革特別計画の作成主体の名称

きそくのおおくむら
木曾郡大桑村

2 構造改革特別区域の名称

切磋琢磨とこまやか学習特区

3 構造改革特別区域の範囲

長野県木曾郡大桑村の全域

4 構造改革特別区域の特性

大桑村は、平成 15 年 4 月 1 日現在、人口 4,733 人の少子高齢化が進む過疎の村です。村では、平成元年に制定された「大桑村村民憲章」を基本に、平成 6 年から平成 15 年の 10 年間を目標に「第 3 次大桑村総合計画」が策定され、教育に関して「村内にある 3 つの小学校をどうしたらよいか」大きな提言がされました。また、中央教育審議会第一次答申「21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について」、長野県教育長期構想「確かな知性・あふれる意欲・豊かな感性をはぐくむ教育をめざして」の二つの提言など、教育を取り巻く状況が大きく変わろうとしていました。さらに、学校完全 5 日制・教育課程の見直し・コンピューター導入・地域教育、家庭教育との一体など教育行政が変化する中で、「学校・教室・授業が本来の任務を遂行し、子どもたちにとって居場所があり学力の向上と自立が図られるか。そのためには何をなすべきか。」について、多角的に検討を進めることになりました。

教育委員会では、このことを重視して小学校の適正規模について、検討を重ね、児童数の減少による単なる合併ではなく、21 世紀を担う子どもたちにとって大切なものは何かを見据えた結果として、平成 10 年 3 月に村内の 3 つの小学校を 1 校に統合する方向を定めました。

5 構造改革特別区域計画の意義

大桑村教育委員会では、これからの教育は、一律平等主義にもとづく、均質的な

人を育てる画一的教育から、社会の成熟化やグローバル化の進展に伴い、創造性や国際競争に耐える人材育成の教育に転換が求められていると考えます。そこで、児童生徒の優れた個性を伸ばして、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図り、豊かな人間性、正義感、他人を思いやる心、郷土を愛する心、全ての命を尊重するなど時代を超えて変わらない価値のある物を大切にしながら、自然と人間、心と物の調和のある社会の発展と国際社会に尽くす態度を養うことを大桑村の教育の基本理念としています。

しかし、村内3地区にあった3つの小学校はいずれも小規模校（1学年1学級）であり、学習面や生活面において学級内での馴れ合いが強く、互いに競争するという気分は持つことができないため、児童生徒が持つ個性を伸ばすことや積極的でたくましい児童生徒を育成する状況にはなっていませんでした。そこで、1校に統合し「切磋琢磨と基礎学力の向上を図る。」「国際化と多様化への対応を図る。」「自己を確立し、地域を愛する子どもを育てる。」「新しい教育環境の実現を図る。」という4つの目標を実現していくこととしました。

さらに、学校と教育委員会が一体となって、生きる力を醸成するための特色ある大桑村の教育として、基礎学力の向上、健全な心身をつくる、学社融合の実現、地域に開かれた学校をつくることを柱とした「学校運営基本方針と具体的な取り組み」を決定しました。そして、最大の目標である全児童生徒の基礎学力の向上にむけて、互いに切磋琢磨してともに伸びる環境を設定し、学力向上をめざすきめ細やかな学習体制づくりを実施していくことのできる1学年2学級体制を実現したいと考えました。

統合以前の小規模校（6学級）においては、強くたくましい、個性のある創造力豊かな子どもを育てようという工夫が凝らされていましたが、補いきれない問題が起こっていました。例えば、毎日の清掃活動ですが、学年ごとでは人数や力の差があり分担しにくいいため、学年の枠を外して1年から6年までの縦割りグループにして行っていたのですが、助け合って作業するほほえましい後景の一方で毎日のことにもなると体力差による分業化が進み、不公平感が強くなり達成の喜びも味わえない状況でした。また、学級運営についても、子どもたちの心に新風をまきおこし、一人ひとりの個性を開花させ潜在する能力を引き出すため、グループのメンバーや隣に座る友達を決めますが、6年間も同じクラスとなると組み合わせが決まってし

まい、新しい気分で張り切らせようという願いはとても無理なことになってしまいました。さらに、校外における教育活動として、遠足や社会見学・修学旅行がありますが、日常生活をともに接している仲間と行動しているため、ちょっとした違う環境の場で気心の知れない仲間や初めて接する大人たちとうまく接する方法がわからず、気後れしている姿が見受けられます。

教員からは、大桑村の子どもの短所として「刺激の少ない単調な環境や家庭的な雰囲気のある学校生活を反映し、積極性・計画性に欠ける」「語らいや表現力が乏しく、発表意欲に欠ける」「学習意欲や競争心・向上心など切磋琢磨の気分に乏しく、学習の深まりをあまり期待できない」という意見が挙げられており、また、「運動会や音楽会などが2学級あれば、クラス対抗リレーや合唱や輪唱など、創意工夫して発表する内容に幅を持たせることができる」「教員についても同学年の学級担任がいないため、学級で行っているドリル学習などの指導方法について相談したくてもできない」など、改善すべき点が挙げられました。

そこで大桑村では、小中の義務教育9年間を対象に、学校運営基本方針の最大目標である基礎学力の向上について実施していくため、村の責任により1学年2学級体制として環境の整備をすすめていきます。

また、教科学習だけでは知り得ることのできない大桑特有の学習として、豊かな自然環境と文化歴史について体験を通して学ぶことや、幅広い年代の人々とふれあうことで温かい人情細やかな優しい心と思いやりを持つことのできる子どもを育成しながら、地域に愛着を持つふるさと教育を学校と地域が一体となって実施していきます。

6 構造改革特別区域計画の目標

大桑村では、村民が安心して快適な生活ができるよう村民憲章を基本に施策を進めており、中でも大桑村の豊かな自然を題材に大桑村でしか味わえない多くの経験や体験を与え、必ず回帰する「大桑発大桑行」人間形成にむけて人づくり事業「鮭回帰戦略」の実現を目指し、地域の人材育成をすすめています。

大桑村内の小中学校の学級編制は、国の40人学級基準と県の信州こまやか教育プランの導入により、30人規模学級編制事業（学級編制基準を1年から3年生を40人から35人とする）で編制すると、下記の表のとおり平成15年度には小学校

で1・6年生が1学級となり、平成16年度以降も1学級となる学年が小中合わせて3～4学年該当することが見込まれます。

そこで、今年度職員2名を村費で採用し、小中ともに各学年2学級体制として学校運営基本方針の最大目標でもある「基礎学力の向上と切磋琢磨」を実現したいとするものです。

現在、村では基礎学力の向上として、下記のとおり具体的な取り組みを進めているところです。

新学習指導要領の学力を全員が達成することを目指す。

反復学習・TT学習・習熟度別学習・補完授業等により、個の力に応じた学力の伸張を図る。

ALTによる英会話学習の充実を図る。

学力調査を実施し、目標達成度を客観的に評価する。

こうした取り組みに加えて、1学年2学級体制にすることで、児童・生徒、さらには指導する教員にも同じ学年内であっても違う集団という意識＝競争心が生まれ切磋琢磨し、学校全体の学力向上につなげるものです。小学校においては、算数の100マス計算の達成になど、目標を決めさせ達成度を掲示して学習意欲を引き出す環境をつくります。中学校においては、学期末に行われるテストでは、クラスとして平均点を出し、次のテストに向けてレベルアップできるようにと互いを意識し競争できる環境とします。また、学校生活の一番身近な集団をクラス替えすることによってクラス全体の雰囲気や友人関係に刺激となり、友人関係など広がりが出てくることを期待しています。一方、子ども達の中では、目には見えない子ども同士の嫌がらせなどにより、クラスの中で友人がつかれないため、教室に入れず保健室などに登校したり不登校になってしまうケースも生じており、クラス替えなどによる学級の雰囲気の変化や新しい友人関係に期待して教室に戻ることができるような教育環境をつくり、不登校児童生徒等の問題解決の手段とします。

『学級』という子どもと指導する担任の集団は、日々の生活や学習の中でまとまっていくことができ、同じ学年に互いを意識することのできる学級があることで向上する力となっていくものです。TT方式のように補充するという指導とは違い、『個』としての集団生活を実施していくことが、教員にとって学級担任をすることによって得られる学級経営のよろこびや、学級担任を通してしか得ることのできな

い子ども達の成長に対するよろこびを感じる事ができ、指導にやりがいと自信がもてるものとなります。

また、特例により採用する職員は地域に根ざした者の採用を第一としており、地域に愛着を持つためのふるさと学習を取り組むことで、これにより大桑村についてより詳しく親しみをもって学習することとなり、数多くの物を見ることや、人に直接ふれあう学習を実現するものです。地域の地場産業でもある林業を村有林や国有林に入って、実態を知ることと間伐や植樹などの作業する林業体験を通して山が持つ役割の大切さを学ぶことや、教科でも学習する米作りについて、米を作る過程を学習するだけでなく地域に伝わる行事や習わしを含め知ることができ、地域の人々に教えてもらうことで世代間の交流にもつながっていくものです。そしてこのことは、地域の人材育成を進めている鮭回帰戦略を実現するものとなります。

平成 15～21 年度児童生徒数及び学級数の推移見込

平成 15 年 4 月 1 日現在

【小学校】

	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合 計
	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
平成 15 年度	32	1	39	2	40	2	44	2	46	2	40	1	241
平成 16 年度	43	2	32	1	39	2	40	1	44	2	46	2	244
平成 17 年度	42	2	43	2	32	1	39	1	40	1	44	2	240
平成 18 年度	41	2	42	2	43	2	32	1	39	1	40	1	237
平成 19 年度	39	2	41	2	42	2	43	2	32	1	39	1	236
平成 20 年度	37	2	39	2	41	2	42	2	43	2	32	1	234

* 学級数は、学級編制基準 1～3 学年 35 人、4～6 学年 40 人に基づくもの

【中学校】

	1 年		2 年		3 年		合 計
	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
平成 15 年度	44	2	46	2	41	2	131
平成 16 年度	40	1	44	2	46	2	130
平成 17 年度	46	2	40	1	44	2	130
平成 18 年度	44	2	46	2	40	1	130
平成 19 年度	40	1	44	2	46	2	130

平成 20 年度	39	1	40	1	44	2	123
----------	----	---	----	---	----	---	-----

* 学級数は、学級編制基準 1 ~ 3 学年 40 人に基づくもの

7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

1 学年 2 学級体制にすることによって、進級時に同学年によるクラス替えが実施でき、クラスの仲間や先生が替わることで心気一転することができ、新たな気持ちが生まれてくることが期待できます。対人関係でも、多くの仲間に日常生活を通して接する中で気後れすることなく積極的に友人を増やすことができるようになります。学力の面でも構成する仲間が替わることでクラスの平均点にも変化ができ、さらなるレベルアップに効果が上がるものと思われます。基礎学力の向上に向けて日々取り組んでいる中で、アップしたときのよろこびをうまく励みにする（目標を達成したら学級としてパーティを開く）ことで、自ら次のステップに向けた目標が持てるようになり、児童・生徒全体の基礎学力を伸ばすことができ、伸びる子どもをさらに伸ばすことにつながります。指導する教員については、自分の考え方や指導方法など日々の取り組みを評価し、教員同士の切磋琢磨を行うことで、学習内容の充実を図ります。

ふるさと学習では教科学習と違って知の押しつけになることはなく、児童・生徒が興味を持って自分で課題を見つけ、自分で調べることができるようになります。また、指導する地域の人との会話から方言を知ることでもでき、学習する内容にも広がりが出てきます。地域の人が教育に関わることで、地域の教育力が向上するとともに、ふるさとをおおくわを愛し理解することができる人材育成につながるものとなります。

8 特定事業の名称

8 1 0 市町村費負担教職員任用事業

9 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

村では、鮭回帰戦略に基づいてふるさと大桑を愛する人材育成を実施しています。

個人が持つ個性や知識をさらに深め伸ばし、やがて地域の活動に生かすことを目的とした人づくりは、成人者だけでなくこれからの大桑村を支える子ども達の育成にも積極的に取り入れています。中学・高校生を対象としてアメリカシェルビービル市へのホームステイや、中学生を対象にみどりの少年団として北海道へ夏休み中に林業体験を実施しながら、大桑村を離れて見た時に改めて大桑の良さを再認識することができるものと考えます。

学校教育の中では、郷土の人としての物の見方や考え方を育む教育としてふるさと学習を位置づけ、おおくわについて良く知ることからはじめ、季節や環境を充分取り入れた内容を実施します。例えば、新小学校の中庭につくられたビオトープでは蛍の生息する学校として環境を整え、全校で観察していきます。生物の蛍を観察するだけではなく、蛍が住みやすい環境について学習することが地球環境について学習することにつながっていきます。林業体験や農業体験からは、昔農林産業が中心だった大桑村の歴史を学び、農林業の役割や大切さを知ることができます。そこに古くから携わった人達から聞く事実には説得力があり、大桑村特有の習わしについても知ることができ、昔から伝わる風習として次代へつなぐことができます。また、大桑村の観光地として有名な秘境とも言われるほど水の美しい「阿寺川」で水泳することは、自然の恵の中で自分たちの村の宝と感ずることができるものとなり、やがて社会に出た時に心安らぐ美しい村の景色として誰もの心に残るものとなります。こういった村の持つ自然と文化や歴史を、大桑村を愛する地域住民から指導に関わってもらうことが、子ども達にとっても村が身近になるものであり、教える地域住民にとっても自分たちの村の子どもを自分たちが教育するという意識につながり、村全体で教育を考え実践することとなります。

(別紙)

構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業の内容、実施主体及び開始の日ならびに特定事業ごとの規制の特例措置の内容

1 特定事業の名称

810 市町村費負担教職員任用事業

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとするもの

大桑村教育委員会

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

構造改革特別区域計画の認定日

4 特定事業の内容

事業の主体 大桑村教育委員会

事業の区域 大桑村立大桑小学校及び大桑村立大桑中学校

事業の実施期間 構造改革特別区域計画の認定日

事業の内容

平成15年度村費採用教員2人を任用して大桑村立大桑小学校へ配置する
次年度以降は1学級になる学年の人数を採用し、該当する学校へ配置する

5 当該規制の特例措置の内容

大桑村では、少子高齢化が進み教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、平成10年に村内の3小学校を1校に統合することとしました。その際に21世紀を担う子どもたちにとって大切なものは何か検討をすすめ、特色ある大桑村の教育として『自分の村(子)の教育は、自分たちで考え、自分たちで決め実現すること』と考え、「学校運営基本方針と具体的な取り組み」を検討してきました。特に「生きる力の基本となる「基礎・基本の学習の習得」を行うため、1学年を2学級体制とし、互いに切磋琢磨してともに伸びる環境を設定し、学力向上をめざすきめ細やかな学習体制づくりを実施していくこととしました。

小規模校（6学級）では、強くたくましい、個性のある創造力豊かな子どもを育てようという工夫が凝らされていましたが、補いきれない問題が起こっています。子どもたちの心に新風をまきおこし、一人ひとりの個性を開花させ潜在する能力を引き出すため、グループのメンバーや隣に座る友達を決めますが、6年間も同じクラスとなると組み合わせが決まってしまう新しい気分で張り切らせようという願いはとても無理なことになってしまいます。さらに、校外における教育活動として、遠足や社会見学・修学旅行がありますが、日常生活をともに接している仲間と行動しているため、ちょっとした違う環境の場で気心の知れない仲間や初めて接する大人たちとうまく接する方法がわからず、気後れしている姿が見受けられます。

教員からは、大桑村の子どもの短所として「刺激の少ない単調な環境や家庭的な雰囲気のある学校生活を反映し、積極性・計画性に欠ける」「学習意欲や競争心・向上心など切磋琢磨の気分に乏しく、学習の深まりをあまり期待できない」と言われています。また、運動会や音楽会などが2学級あれば、クラス対抗リレーや合唱や輪唱など、創意工夫して発表する内容に幅を持たせることができるなど、小規模校の教育的な不利な点が上げられています。

大桑村内の小中学校の学級編制は、国の40人学級基準と県の信州こまやか教育プランの導入により、30人規模学級編制事業（学級編制基準を1年から3年生を40人から35人とする）で編制すると、下記の表のとおり平成15年度には小学校で1・6年生が1学級となり、平成16年度以降も1学級となる学年が小中合わせて3～4学年該当することが見込まれます。

そこで、今年度職員2名を村費で採用し、小中ともに各学年2学級体制として学校運営基本方針の最大目標でもある「基礎学力の向上と切磋琢磨」を実現したいとするものです。

1学年2学級体制にすることで児童・生徒、さらには指導する教員にも同じ学年内であっても違う集団という意識＝競争心が生まれ切磋琢磨し、学校全体の学力向上につながると考えます。中学校で学期末に行われるテストはでは、クラスとして平均点が出され、次のテストに向けてレベルアップできるようにと互いを意識し合うことができます。基礎学力の向上に向けて日々取り組んでいる中で、アップしたときのよろこびをうまく励みにする（目標を達成したら学級としてパーティを開く）ことで、自ら次のステップに向けた目標が持てるようになり、児童・生徒全体の基

礎学力を伸ばすことができ、伸びる子どもをさらに伸ばすことにつながります。このことは、指導する教員にとっても学級経営するという意味で、自分の考え方や指導方法によって成果が表れることになり、良くも悪くも日々の取り組みが評価される中で成長していくことができます。また、学校生活の一番身近な集団をクラス替えすることによってクラス全体の雰囲気や友人関係に刺激となり、友人関係など広がりが出てくると考えます。子ども達の中では、目には見えない子ども同士の嫌がらせなどにより、クラスの中で友人がつかれないため、教室に入れず保健室などに登校したり不登校になってしまうケースもあり、クラス替えなどによって学級の雰囲気が変化することや新しい友人関係に期待でき教室に戻ることができるという声があります。多くの仲間と日常生活を通して接する中で気後れすることなく積極的に友人を増やすことができるようになることが期待できます。

「できるところから実施し検証していく」というスタンスに立ち、特色のある大桑村独自の教育として検討してきた「学校運営基本方針と具体的な取り組み」の実現に向けてさらなる検討と実践がすすめられています。

今回の小学校の統合が結果として終わるのではなく、これからの学校運営がどう実践されていくかが統合の是非として問われていることから、上記の経過を踏まえ、この特例措置が必要と認め申請するものです。

添付資料

- 1．構造改革特別区域に含まれる行政区域を表示した図
- 2．構造改革特別区域計画の工程表
- 3．構造改革特別区域計画の工程表 説明